



# 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月31日

上場会社名 武田薬品工業株式会社  
 コード番号 4502 URL <http://www.takeda.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート・コミュニケーション部長  
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月14日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

上場取引所 東 名 札 福

(氏名) 長谷川 閑史  
 (氏名) クリストファー ホフマン TEL 03-3278-2037  
 配当支払開始予定日 平成25年12月2日

(百万円未満四捨五入)

## 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	828,343	5.3	99,976	△7.9	96,740	△14.5	64,705	△46.0
25年3月期第2四半期	786,936	12.0	108,576	△48.6	113,099	△46.0	119,790	△11.7

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 195,644百万円 (—%) 25年3月期第2四半期 △18,969百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	81.96	81.88
25年3月期第2四半期	151.74	151.71

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期第2四半期	4,253,216	2,347,168	53.6	2,889.49		
25年3月期	3,955,599	2,223,359	54.6	2,734.79		

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 2,281,167百万円 25年3月期 2,159,006百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	90.00	—	90.00	180.00
26年3月期	—	90.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	90.00	180.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,680,000	7.9	140,000	14.3	125,000	10.5	95,000	△27.6	120.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 11「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	789,680,595 株	25年3月期	789,666,095 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	209,006 株	25年3月期	205,831 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	789,460,709 株	25年3月期2Q	789,422,792 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点においては、レビュー手続は一部終了していません。なお、レビュー手続を終了後、11月14日に四半期報告書を提出する予定です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。事業環境等の変化により、当社業績に重大な影響が生じると判断した場合には、速やかにご報告いたします。

・業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料11ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照下さい。

・当社は、平成26年3月期の期末決算から国際財務報告基準(以下、IFRS)を任意適用することを決定しました。日本基準とIFRSとの主要な差異を織り込んで計算したIFRSの当四半期の概算値および詳細については、四半期決算補足説明資料「2013年度第2四半期 連結業績の概要」の32ページと33ページをご参照下さい。

・決算補足説明資料、ならびに本日10/31(木)開催の決算説明会における資料、説明内容(動画)および主な質疑応答については、速やかに当社のホームページに掲載致します。

(当社ホームページ)

<http://www.takeda.co.jp/investor-information/results/>

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	10
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	11
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	11
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	11
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	11
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	11
3. 四半期連結財務諸表.....	12
(1) 四半期連結貸借対照表.....	12
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	14
四半期連結損益計算書.....	14
四半期連結包括利益計算書.....	15
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書.....	16
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	17
（継続企業の前提に関する注記）.....	17
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）.....	17
（セグメント情報等）.....	17
（販売実績（外部顧客に対する売上高））.....	18

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

#### ①はじめに

米国経済は緩やかな回復傾向が続いているものの、欧州では債務危機に端を発した景気低迷からの本格的な回復には未だ至っておらず、新興国においても経済成長に減速傾向が見られるなど、世界経済の動向は依然として不透明な状況にあります。一方、国内においては、日銀による金融緩和や政府による財政政策の効果もあり、国内需要が底堅く推移するなど、景気は緩やかに回復しつつあります。

医薬品市場の動向をみると、大型製品の相次ぐ特許切れの影響に加え、各国で財政再建を背景とする医療費抑制策の強化が進んでいることなどにより、先進国を中心に成長が鈍化しております。また研究開発においても承認審査の厳格化や技術革新の壁に直面し、画期的な新薬の創出は困難となってきましたが、iPS 技術の実用化、アンメット・ニーズを満たす新薬の創出に繋がるイノベーションに大きな期待が寄せられています。

このような環境のもと、当社は、グローバルカンパニーとして、2020 年のあるべき姿を示す「ビジョン2020」を今春策定し、「革新的な医薬品に加え、高品質なブランドジェネリック医薬品(特許の切れた先発品)、ワクチン、一般用医薬品(OTC 医薬品)をお届けすることで、少しでも早く、少しでも多くの人々の願いに応えていく」ことを当社の長期目標と決めました。

このビジョンの実現に向け、2013 年度を起点とする新中期成長戦略をスタートさせ、「グローバル化の推進(Globalization)」、「多様性の追求(Diversity)」、「革新への挑戦(Innovation)」を基本軸として、これまでの戦略の深化・発展に取り組んでおります。

特に今後は、研究開発パイプラインの一層の強化、新興国を中心とした海外事業基盤の確立、およびグローバル製薬企業として強靱で効率的な事業運営体制の構築を進めてまいります。

#### <販売関連>

先進国においては、既存品から新製品へと製品構成の転換を進めており、新興国においては、市場成長率を上回る成長の実現に向け、当社の新製品に加えて、各市場のニーズに合致した製品の獲得・育成に向けた取り組みを推進しております。

米国においては、本年6月に販売を開始した2型糖尿病治療剤「ネシーナ」、「カザーノ(「ネシーナ」と「メトホルミン」の合剤)」、「オセーニ(「ネシーナ」とチアゾリジン系の2型糖尿病治療剤「アクトス」の合剤)」の売上拡大に注力しております。「オセーニ」は、DPP-4 阻害薬とチアゾリジン系薬剤の合剤としては、米国で初めての製品となります。また、本年9月に、米国「Arbor 社」の子会社と高血圧症治療剤「イダービ」および「イダーバクロー」の米国における開発・販売に関する独占的アウトライセンス契約を締結しました。この契約により、同社を通じて米国における本製品の価値最大化を進めるとともに、当社は、他の新製品や今後上市を予定している製品のプロモーション・販売に最大限注力してまいります。

欧州においては、ナイコメッド社買収により重複する事業が存在する地域での販売子会社の整理・統合も概ね終了し、さらに、製造および研究開発拠点の統廃合を通じた事業運営体制の合理化を進めており、コスト削減のシナジー効果も確実に実現しております。また、悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」が極めて順調に伸長しております。加えて、本年6月に小児の再発・難治性 CD30陽性ホジキンリンパ腫または全身性未分化大細胞リンパ腫を対象とした臨床試験における同剤の高い腫瘍縮小効果を示す中間解析結果を発表しました。

日本においては、戦略製品である2型糖尿病治療剤「ネシーナ」ファミリー、高血圧症治療剤「アジ

ルバ」の売上最大化に注力しており、特に、「アジルバ」については、本年5月に長期処方解禁されたことを機に、一段と処方が拡大しております。

#### <研究開発関連>

当社の研究開発の意義は、アンメットメディカルニーズに応えるために、資源を投入し、革新的な医薬品の創出に挑戦し続けることにあります。その考えに基づき、充実した開発後期のパイプラインの早期承認取得に向けた活動に注力しております。なお、当期における各地域・国別の主な成果は以下のとおりです。

米国においては、本年6月、クローン病・潰瘍性大腸炎治療薬「MLN0002(一般名: vedolizumab)」の販売許可を申請し、潰瘍性大腸炎については、9月に米国食品医薬品局(FDA)より優先審査に指定されております。また、同9月には、大うつ病治療剤「プリンテリックス」の販売許可を取得いたしました。

欧州においては、本年8月、非定型抗精神病薬「ルラシドン塩酸塩」のスイスでの販売許可を取得し、9月に販売を開始いたしました。さらに同9月には、2型糖尿病治療剤「ビピディーア(注1)」、「ビブドメット(注2)」および「インクリーシク(注3)」について欧州での販売許可を取得いたしました。

また、中国においても、本年7月、2型糖尿病治療剤「ネシーナ」の輸入販売許可を取得いたしました。

さらに、日本においては、本年9月、肥満症治療剤「オブリーン」の製造販売承認を取得するなど、各国における取り組みも順調に進んでおります。

ワクチン事業においては、本年5月、米国「インビラージェン Inc.」を買収し、デング熱ワクチンなどの開発パイプラインを拡充しました。また、本年9月、日本において、インフルエンザ菌b型(Hib)による感染症の予防を目的とした Hib ワクチン「TAK-816」の製造販売承認申請を行いました。

今後も、当社は、自社研究開発のみならず、他社との研究アライアンス活動や共同研究等の事業開発を通じて、費用効率を改善しつつ、研究開発生産性の更なる向上に努めてまいります。

研究開発活動の詳細につきましては、8ページの「⑤研究開発活動の内容および成果」をご参照下さい。

(注1)日本・米国製品名「ネシーナ」、(注2)米国製品名「カザーノ」、(注3)日本製品名「リオベル」、米国製品名「オセーニ」

当社は、230年を超える長い歴史の中で培われた普遍的な価値観である「タケダイズム(誠実:公正・正直・不屈)」を根幹に、さらなるコンプライアンスの徹底を図り、今後も、「優れた医薬品の創出を通じて人々の健康と医療の未来に貢献する」というミッションの実現に向けて邁進してまいります。

#### <ご参考> 2010年以降に発売した主要製品

[日本]

##### <2010年 発売>

2型糖尿病治療剤「ネシーナ錠(一般名:アログリプチン安息香酸塩)」  
 高血圧症治療剤「ユニシア配合錠(「プロプレス」とカルシウム拮抗剤(アムロジピンベシル酸塩)の合剤)」  
 抗癌剤「ベクティビックス点滴静注(一般名:パニツムマブ)」  
 不眠症治療剤「ロゼレム錠(一般名:ラメルテオン)」  
 2型糖尿病治療剤「メタクト配合錠(「アクトス」とビッグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩)の合剤)」  
 2型糖尿病治療剤「アクトスOD錠(口腔内崩壊錠)」  
 ヘリコバクター・ピロリ二次除菌用組み合わせ製剤「ランピオンパック(「タケプロン」、アモキシシリン水和物およびメトロニダゾールの組み合わせ製剤)」

<2011年 発売>

アルツハイマー型認知症治療剤「レミニール(一般名:ガランタミン臭化水素酸塩)」(「ヤンセンファーマ株式会社」からの導入品であり同社と共同販売を実施)

2型糖尿病治療剤「ソニアス配合錠(「アクトス」とスルホニルウレア系薬剤(グリメピリド)の合剤)」

2型糖尿病治療剤「リオベル配合錠(「ネシーナ」と「アクトス」の合剤)」

<2012年 発売>

高血圧症治療剤「アジルバ錠(一般名:アジルサルタン)」

<2013年1月 発売>

高脂血症治療剤「ロトリガ粒状カプセル(一般名:オメガ-3脂肪酸エチル)」

[北米]

(米国)

<2010年 発売>

2型糖尿病治療剤「アクトプラスメット XR(「アクトス」とビッグアナイド系薬剤(メホルミン徐放製剤)の合剤)」

<2011年 発売>

高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン モドキソミル)」

<2012年 発売>

高血圧症治療剤「イダーバクロー(「イダービ」とサイアザイド系利尿剤(クロルタリドン)の合剤)」

<2013年6月 発売>

2型糖尿病治療剤「ネシーナ(一般名:アログリプチン安息香酸塩)」

2型糖尿病治療剤「カザーノ(「ネシーナ」とビッグアナイド系薬剤(メホルミン塩酸塩)の合剤)」

2型糖尿病治療剤「オセーニ(「ネシーナ」と「アクトス」の合剤)」

(カナダ)

<2010年 発売>

逆流性食道炎治療剤「デクスラント(一般名:デクスランソプラゾール)」

痛風・高尿酸血症治療剤「ユーロリック(一般名:フェブキソスタット)」

<2011年 発売>

慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

<2012年 発売>

鉄欠乏症貧血治療剤「フェラヘム(一般名:フェルモキシトール)」

[欧州]

<2010年 発売>

非転移性骨肉腫治療剤「メパクト(一般名:ミファミルチド)」

<2012年 発売>

高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン モドキソミル)」

鉄欠乏症貧血治療剤「リエンゾ(一般名:フェルモキシトール)」

悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス(一般名:ブレンツキシマブ・ベドチン)」

<2013年9月 発売>

非定型抗精神病薬「ラツーダ(一般名:ルラシドン塩酸塩)」

[新興国のうち主なもの]

(ブラジル)

<2011年 発売>

慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

(ロシア)

<2012年 発売>

慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

(メキシコ)

<2011年 発売>

逆流性食道炎治療剤「デクスラント(一般名:デクスランソプラゾール)」

非転移性骨肉腫治療剤「メパクト(一般名:ミファミルチド)」

<2012年 発売>

高血圧症治療剤「イダービ(一般名:アジルサルタン モドキソミル)」

<2013年1月 発売>

慢性閉塞性肺疾患治療剤「ダクサス(一般名:ロフルミラスト)」

<2013年3月 発売>

高血圧症治療剤「イダーバクロー(「イダービ」とサイアザイド系利尿剤(クロルタリドン)の合剤)」

## ②当期(2013年4-9月期)における業績の概要

当期の連結業績は、以下のとおりとなりました。

売上高	8,283 億円 [ 対前年同期	414 億円( 5.3%) 増 ]
営業利益	1,000 億円 [ 〃	86 億円( 7.9%) 減 ]
経常利益	967 億円 [ 〃	164 億円( 14.5%) 減 ]
四半期純利益	647 億円 [ 〃	551 億円( 46.0%) 減 ]

## 〔売上高〕

前年同期から 414 億円(5.3%)増収の 8,283 億円となりました。

・国内では昨年に販売を開始した高血圧症治療剤「アジルバ」に加え、2型糖尿病治療剤「ネシーナ」が伸長しました。また、米国では多発性骨髄腫治療剤「ベルケイド」、逆流性食道炎治療剤「デクスラント」の伸長に加え、昨年6月に買収した「URLファーマ社」から獲得した痛風・高尿酸血症治療剤「コルクリス」の増収効果がありました。欧州では悪性リンパ腫治療剤「アドセトリス」が極めて順調に売上を伸ばしているほか、アジアを含む新興国では消化性潰瘍治療剤「パントプラゾール」などの販売が拡大しています。さらに、為替レートが円安となった影響(780 億円のプラス)などもあり、米国における2型糖尿病治療剤「アクトス」の特許期間満了に伴う後発品参入による大幅な減収(720 億円)を吸収し、全体では 414 億円の増収となりました。

・医療用医薬品の主要品目の売上高は下記のとおりです。

高血圧症治療剤 「カンデサルタン(国内製品名:プロプレス)」	823 億円	対前年同期	69 億円( 7.7%)減
前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤 「リュープロレリン(国内製品名:リュープリン)」	641 億円	〃	68 億円( 11.8%)増
消化性潰瘍治療剤 「ランソプラゾール(国内製品名:タケプロン)」	599 億円	〃	40 億円( 7.2%)増
消化性潰瘍治療剤 「パントプラゾール」	479 億円	〃	111 億円( 30.2%)増
多発性骨髄腫治療剤 「ベルケイド」(米国売上高)	474 億円	〃	116 億円( 32.6%)増
痛風・高尿酸血症治療剤 「コルクリス」(米国売上高)	257 億円	〃	134 億円(108.0%)増(注)
2型糖尿病治療剤 「ピオグリタゾン(国内製品名:アクトス)」	200 億円	〃	720 億円( 78.3%)減

(注) 2012年6月の米国「URLファーマ社」買収に伴い獲得した「コルクリス」について、買収前の2012年4月から5月までの売上高は前年比較の対象に含めておりません。

## 〔営業利益〕

前年同期から 86 億円(7.9%)減益の 1,000 億円となりました。

・売上高の増加により売上総利益が 262 億円(4.6%)増益となったものの、販売費及び一般管理費は為替レートが円安となった影響(679 億円の費用増加)により 348 億円(7.5%)増加したため、営業利益は減益となりました。

・研究開発費は、5億円(0.3%)増加し、1,552 億円となりました。

・研究開発費以外の販売費及び一般管理費は、海外子会社における事業運営体制の合理化による経費削減効果等があったものの、為替レートが円安となった影響により 343 億円(11.1%)増加し、3,419 億円となりました。

・企業買収による特殊要因除きの営業利益(注)は、前年同期から24億円(1.4%)減益の1,753億円となりました。

(注)営業利益から、企業買収によるのれん償却費・無形固定資産償却費等の特殊要因を控除して算定しております。

〔経常利益〕

前年同期から164億円(14.5%)減益の967億円となりました。

営業利益が減益となったことに加え、為替差損の増加などにより営業外損益が78億円悪化したため、経常利益は減益となりました。

〔四半期純利益〕

前年同期から551億円(46.0%)減益の647億円となりました。

・経常利益が減益となったことに加え、前年同期においては、過年度納付した移転価格税制に基づく追徴税の還付金(還付税金および還付加算金)を528億円計上していることから、四半期純利益は減益となりました。

・1株当たり四半期純利益は、前年同期から69円78銭(46.0%)減少し、81円96銭となりました。

・特別損益および企業買収などによる特殊要因除きの四半期純利益(注)は、前年同期から32億円(2.7%)増益の1,214億円となり、同1株当たり四半期純利益は、前年同期から4円01銭(2.7%)増加し、153円80銭となりました。

(注)四半期純利益から、特別損益、企業買収によるのれん償却費・無形固定資産償却費等の特殊要因および移転価格税制に係る還付税金を控除して算定しております。

③当期(2013年4-9月期)におけるセグメント別業績の状況

当期における各セグメントの売上高および営業利益は、以下のとおりとなりました。

セグメント	売上高		営業利益	
	金額	対前年同期	金額	対前年同期
医療用医薬品事業	7,487億円	383億円増	837億円	117億円減
〈国内〉	〈2,909億円〉	〈53億円減〉		
〈海外〉	〈4,578億円〉	〈437億円増〉		
ヘルスケア事業	367億円	31億円増	105億円	20億円増
その他事業	450億円	2億円減	66億円	8億円増
全社合計	8,283億円	414億円増	1,000億円	86億円減

(注)各セグメントの売上高は、各報告セグメントの外部顧客に対する売上高を表しております。

〔医療用医薬品事業〕

医療用医薬品事業の売上高は前年同期から383億円(5.4%)増収の7,487億円となり、営業利益は前年同期から117億円(12.3%)減益の837億円となりました。

このうち国内売上高は、「ネシーナ」、「アジルバ」をはじめとする2010年以降に発売した製品群の寄与があったものの、「アクトス」および「プロプレス」の減収や販売契約終了に伴う一部の仕入品の売上減少を吸収できず、53億円(1.8%)減収の2,909億円となりました。



主な品目の国内売上高は下記のとおりです。

「プロブレス」(高血圧症治療剤)	656 億円	対前年同期 17 億円( 2.5%)減
「タケプロン」(消化性潰瘍治療剤)	351 億円	〃 4 億円( 1.1%)増
「リューブリン」(前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤)	338 億円	〃 8 億円( 2.5%)増
「ネシーナ」(2型糖尿病治療剤)	179 億円	〃 25 億円( 16.7%)増
「ベクティビックス」(抗悪性腫瘍剤)	96 億円	〃 0 億円( 0.4%)減
「アクトス」(2型糖尿病治療剤)	83 億円	〃 19 億円( 18.2%)減
「アジルバ」(高血圧症治療剤)	80 億円	〃 60 億円(312.4%)増

海外売上高は、米欧における「ピオグリタゾン」および「カンデサルタン」の後発品参入による大幅な減収があったものの、昨年の「URLファーマ社」の買収による「コルクリス」の売上寄与およびアジアを含む新興国での増収に加え、為替レートが円安となった影響により、前年同期から 437 億円(10.5%)増収の 4,578 億円となりました。

主な品目の海外売上高は下記のとおりです。

「パントプラゾール」(消化性潰瘍治療剤)	479 億円	対前年同期 111 億円( 30.2%)増
「ベルケイド」(多発性骨髄腫治療剤)	474 億円	〃 116 億円( 32.6%)増
「リュープロレリン」(前立腺癌・乳癌・子宮内膜症治療剤)	304 億円	〃 59 億円( 24.3%)増
「コルクリス」(痛風・高尿酸血症治療剤)	257 億円	〃 134 億円(108.0%)増(注)
「ランソプラゾール」(消化性潰瘍治療剤)	248 億円	〃 37 億円( 17.4%)増
「デクスラント」(逆流性食道炎治療剤)	236 億円	〃 85 億円( 56.1%)増
「カンデサルタン」(高血圧症治療剤)	167 億円	〃 52 億円( 23.7%)減
「ピオグリタゾン」(2型糖尿病治療剤)	116 億円	〃 702 億円( 85.8%)減

(注) 2012 年6月の米国「URLファーマ社」買収に伴い獲得した「コルクリス」について、買収前の 2012 年4月から5月までの売上高は前年比較の対象に含めておりません。

#### [ヘルスケア事業]

ヘルスケア事業の売上高は、「アリナミン錠剤類」、「ベンザ類」等の増収により、前年同期から 31 億円(9.3%)増収の 367 億円となりました。営業利益は増収に伴う売上総利益の増益等により、20 億円(24.1%)増益の 105 億円となりました。

#### [その他事業]

その他事業の売上高は前年同期から2億円(0.5%)減収の 450 億円、営業利益は期間経費の減少等により8億円(13.6%)増益の 66 億円となりました。

### ④利益配分に関する基本方針および当期の配当

#### i) 利益配分に関する基本方針

当社は、当社グループの持続的な成長と企業価値の最大化に向け、新興国と先進国にわたるグローバルな事業展開の推進、サイエンスにおけるイノベーションの創出、およびグローバル製薬企業に相応しい強靱で効率的なオペレーティングモデルへの変革を実現する中期成長戦略を策定しています。また、一層の資金効率の向上に取り組み、成長戦略の遂行を支える健全で強固な財務基盤を維持・強化しています。これら基本戦略の着実な実行に伴う成果配分につきましては、中長期的な視点に立ち、株主還元重視の姿勢のもと「安定的な配当」に努めます。なお、1株当たり配当金については 13 年度から 15 年度まで年間 180 円を継続する方針です。

## ii) 当期の配当

当期の中間配当金は、前年同期と同額の1株当たり 90 円とさせていただきます。期末の配当金についても1株当たり90円を予定しており、年間合計では前期と同額の1株当たり180円とさせていただきますことを予定しております。

## ⑤研究開発活動の内容および成果

当社は、「緊急性」、「イノベーション」、「パフォーマンス評価」、「連携」の研究開発における4つの行動原則に、「Quality of Thought(注1)」と「Operational Excellence(注2)」という2つの方針を加えた戦略および取り組みにより、研究開発生産性を着実に向上させています。当社は、アンメットメディカルニーズが高く、当社の強みが発揮できる「代謝性・循環器系疾患」、「癌」、「中枢神経系疾患」、「免疫・呼吸器系疾患」、「消化器・腎臓系・その他疾患」、「ワクチン」を重点領域と位置付け、経営資源を投下し、画期的新薬の創出に挑戦しています。短期的には「充実した開発後期パイプラインの価値最大化」、中期的には「開発中期パイプラインの拡充」、長期的には「創薬研究能力の競合優位性、生産性の強化」に取り組み、引き続き研究開発生産性の更なる向上に努めてまいります。なお、研究開発の戦略を整合させつつ、強靱かつ効率的なオペレーティングモデルを構築するため、当社の100%子会社であるミレニアム社の癌領域に関する研究開発機能を、本年5月、CMSO 部門に統合しました。当期における研究開発活動の主な内容および成果は下記のとおりです。

(注1)思考の質

(注2)業務改善プロセスを徹底させ、オペレーションを最大限まで効率化させること

## [自社創製品に関する取り組み]

- ・本年4月、高血圧症治療剤「アジルバ(一般名:アジルサルタン)」とアムロジピンベシル酸塩の合剤について、製造販売承認申請を厚生労働省に提出しました。
- ・本年5月、2型糖尿病治療薬「TAK-875(一般名:fasigliam)」について、第56回日本糖尿病学会年次集会において、日本人の2型糖尿病患者を対象として同薬の有効性と安全性を検討した臨床第3相試験のデータを発表しました。
- ・本年6月、多発性骨髄腫治療薬「MLN9708(一般名:ixazomib citrate)」について、米国臨床腫瘍学会年次集会(ASCO)において、前治療を受けた再発・難治性の多発性骨髄腫患者を対象とした単独投与の臨床第1相試験結果を発表しました。
- ・本年6月、クローン病・潰瘍性大腸炎治療薬「MLN0002(一般名:vedolizumab)」について、中等度から重度の活動期クローン病および潰瘍性大腸炎を対象とした生物学的製剤承認申請を米国食品医薬品局(FDA)に提出し、本年9月、潰瘍性大腸炎を適応症とした生物学的製剤承認申請がFDAより優先審査に指定されました。  
また、本年8月、「MLN0002」の臨床第3相試験結果が医学雑誌「The New England Journal of Medicine」に掲載されました。
- ・本年7月、前立腺癌治療薬「TAK-700(一般名:orteronel)」の、転移性・去勢抵抗性前立腺癌患者を対象とした国際共同臨床第3相試験「ELM-PC5(Evaluation of the Lyase inhibitor orteronel in Metastatic Prostate Cancer 5)試験」(C21005試験)について、試験計画に従って実施した中間解析の結果、独立データモニタリング委員会の推奨に基づき盲検解除しました。

- ・本年7月、2型糖尿病治療剤「ビピディーア(一般名:アログリプチン)」、「ビプロメット(「ビピディーア」と同治療剤「メホルミン」の合剤)」、および「インクリーシンク(「ビピディーア」と同治療剤「アクトス」の合剤)」について、欧州医薬品庁(EMA)の欧州医薬品評価委員会(CHMP)より販売承認を推奨する見解が示され、同年9月、欧州委員会(EC)より販売許可を取得しました。本年7月、2型糖尿病治療剤「ネシーナ(一般名:アログリプチン)」について、中国国家食品薬品监督管理局(CFDA)より輸入販売許可を取得しました。  
また、本年9月、アログリプチンについて、欧州心臓学会(ESC)において、心血管への安全性を評価した試験(EXAMINE 試験)の結果概要を発表しました。なお、この結果については医学雑誌「The New England Journal of Medicine」に掲載されました。
- ・本年10月、当社が現在開発中のノロウイルスワクチン(筋注、GI/GII の2価ワクチン)について、米国感染症学会週間(Infectious Disease Week 2013)において、臨床第1/2相試験の結果を発表しました。

[導入品(アライアンス)に関する取り組み]

- ・本年5月、デンマーク「ルンドベック社」より導入した大うつ病治療剤「ブリンテリックス(一般名:vortioxetine)」について、第166回米国精神医学会年次総会において、成人の大うつ病患者を対象とした臨床第3相試験結果を発表しました。本年9月、本剤について、FDAより、成人の大うつ病を適応症とした販売許可を取得しました。
- ・本年6月、米国「シアトルジェネティクス社」より導入した悪性リンパ腫治療剤「ADCETRIS(一般名:ブレンツキシマブ・ベドチン)」について、ASCOにおいて、小児の再発・難治性CD30陽性ホジキンリンパ腫または全身性未分化大細胞リンパ腫を対象とした臨床第1/2相試験の第1相パートの中間解析結果を発表しました。
- ・本年7月、米国「アフィマックス社」より導入した腎性貧血治療薬「ペギネサタイド(一般名)」について、透析期患者(成人)を対象とした腎性貧血の効能で、昨年2月にEMAに提出していた販売許可申請を取り下げました。
- ・本年7月、当社と米国「ジンファンデル社」は、国際アルツハイマー病学会において、TOMM40遺伝子も加えたバイオマーカーを用いたアルゴリズムによるアルツハイマー病発症リスク評価のシミュレーションの結果を発表しました。本年8月、「AD-4833(一般名:ピオグリタゾン)/TOMM40」について、臨床第3相試験(TOMMORROW 試験)を開始しました。
- ・本年8月、「大日本住友製薬株式会社」より導入した非定型抗精神病薬「ルラシドン塩酸塩(一般名)」について、統合失調症を適応症として、スイス医薬品局(swissmedic)より販売許可を取得しました。
- ・本年9月、オランダ「ノルジーン社」より導入した肥満症治療剤「オブリーン(一般名:セチリスタット)」について、厚生労働省より製造販売承認を取得しました。
- ・本年9月、スイス「ノバルティス社」より導入したHibワクチン「TAK-816」について、製造販売承認申請を厚生労働省に提出しました。

[共同研究に関する取り組み]

- ・本年9月、当社は、米国の「メモリアル・スローン・ケタリング癌センター」、「ロックフェラー大学」、「コーネル大学」およびこれら3つのアカデミア研究機関が共同で設立した「Tri-Institutional Therapeutics Discovery Institute (Tri-I TDI)」と共同研究に関する契約を締結しました。Tri-I TDI の目的は、基礎研究の成果を、特定の生体内反応と疾病の発症・進展の関係について医薬品候補化合物を用い検証する「プルーフ・オブ・コンセプト(POC)(注)」試験へ進めることにあります。

(注)ヒトにおける有効性・安全性の実証

[研究開発体制の整備・強化]

- ・本年5月、ワクチン事業の強化を目的として、米国「インビラージェン Inc.」を買収しました。
- ・本年8月、国内の癌領域開発体制の強化を目的として、当社の100%子会社である「武田バイオ開発センター株式会社」と、同社全事業に関する事業譲渡契約を締結するとともに、2014年4月に事業譲渡を完了し、その後同社を解散することを決定しました。

(2) 財政状態に関する説明

[資産]

当四半期末における総資産は4兆2,532億円となり、前連結会計年度末に比べ2,976億円増加しました。社債の発行および借入の実行に伴い、当座資産を中心に流動資産が2,579億円増加したことに加え、期末日レートの円安に推移したことによる海外資産の円換算額の増加や、「インビラージェン Inc.」の買収に伴うのれんを含む無形固定資産の増加などにより、固定資産が397億円増加しました。

[負債]

当四半期末における負債は1兆9,060億円となり、前連結会計年度末に比べ1,738億円増加しました。社債の発行および借入の実行により固定負債が2,405億円増加したものの、法人税の支払等により流動負債が666億円減少しました。

[純資産]

当四半期末における純資産は2兆3,472億円となりました。配当金の支払があったものの、純利益による増加に加え、円安に伴う為替換算調整勘定の改善などにより前連結会計年度末に比べ1,238億円増加しました。

自己資本比率は53.6%となり、前連結会計年度末から0.9ポイント減少しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、当四半期累計期間の実績および前提となる為替レートの見直しを加味した結果、下記の前回発表予想(平成25年7月31日の決算発表時)から修正はございません。

[平成26年3月期の連結業績予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通 期	16,800 億円	1,400 億円	1,250 億円	950 億円

[見通しの前提条件]

通期の平均為替レート的前提は、1米ドル=99円、1ユーロ=129円としております。

[見通しに関する注意事項]

当社の業績は、事業環境の変化や為替変動による影響など、現在および将来において様々なリスクにさらされております。本資料に記載されている業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく変動し、異なる結果を招きうる不確実性を含んでいます。事業環境等の変化により、当社業績に重大な影響が生じると判断した場合には、速やかにご報告いたします。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## ① 税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	289,613	352,579
受取手形及び売掛金	345,532	385,959
有価証券	258,092	366,557
商品及び製品	108,328	106,837
仕掛品	65,168	70,212
原材料及び貯蔵品	56,035	61,485
繰延税金資産	240,149	238,412
その他	95,330	134,746
貸倒引当金	△3,166	△3,838
流動資産合計	1,455,081	1,712,950
固定資産		
有形固定資産	511,101	503,051
無形固定資産		
のれん	675,353	707,466
特許権	363,057	355,496
販売権	582,869	615,563
その他	68,456	83,891
無形固定資産合計	1,689,735	1,762,416
投資その他の資産		
投資有価証券	176,702	179,989
その他	123,047	94,926
貸倒引当金	△67	△116
投資その他の資産合計	299,682	274,799
固定資産合計	2,500,518	2,540,266
資産合計	3,955,599	4,253,216

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	118,692	107,887
短期借入金	1,795	1,332
未払法人税等	113,430	50,289
賞与引当金	72,338	45,523
その他の引当金	10,928	11,521
その他	296,449	330,436
流動負債合計	613,632	546,986
固定負債		
社債	428,830	548,830
長期借入金	111,329	241,255
繰延税金負債	322,133	320,266
退職給付引当金	60,153	66,802
その他の引当金	19,842	21,960
その他	176,320	159,948
固定負債合計	1,118,608	1,359,062
負債合計	1,732,240	1,906,048
純資産の部		
株主資本		
資本金	63,541	63,562
資本剰余金	39,381	39,030
利益剰余金	2,243,113	2,236,713
自己株式	△587	△602
株主資本合計	2,345,449	2,338,703
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	77,960	83,381
繰延ヘッジ損益	—	△392
為替換算調整勘定	△264,403	△140,525
その他の包括利益累計額合計	△186,443	△57,536
新株予約権	934	1,207
少数株主持分	63,418	64,793
純資産合計	2,223,359	2,347,168
負債純資産合計	3,955,599	4,253,216

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	786,936	828,343
売上原価	216,060	231,309
売上総利益	570,876	597,034
販売費及び一般管理費		
研究開発費	154,677	155,172
その他	307,623	341,886
販売費及び一般管理費合計	462,300	497,058
営業利益	108,576	99,976
営業外収益		
受取利息	493	436
受取配当金	2,218	1,784
為替差益	1,087	—
持分法による投資利益	494	479
営業譲渡益	3,933	4,159
その他	5,220	8,103
営業外収益合計	13,446	14,960
営業外費用		
支払利息	1,548	1,910
寄付金	589	493
為替差損	—	2,861
条件付取得対価に係る公正価値変動額	2,269	5,187
その他	4,517	7,746
営業外費用合計	8,923	18,197
経常利益	113,099	96,740
特別利益		
投資有価証券売却益	17,034	21,585
法人税等還付加算金	11,593	—
特別利益合計	28,627	21,585
特別損失		
事業構造再編費用	11,406	10,029
特別損失合計	11,406	10,029
税金等調整前四半期純利益	130,320	108,296
法人税等	54,703	41,850
過年度法人税等	△45,622	—
法人税等合計	9,080	41,850
少数株主損益調整前四半期純利益	121,239	66,446
少数株主利益	1,449	1,741
四半期純利益	119,790	64,705



## (四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	121,239	66,446
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15,573	5,427
繰延ヘッジ損益	252	△392
為替換算調整勘定	△124,879	124,256
持分法適用会社に対する持分相当額	△9	△93
その他の包括利益合計	△140,208	129,198
四半期包括利益	△18,969	195,644
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△20,293	193,612
少数株主に係る四半期包括利益	1,324	2,032

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	130,320	108,296
減価償却費	80,341	86,745
のれん償却額	16,114	21,251
受取利息及び受取配当金	△2,711	△2,220
支払利息	1,548	1,910
持分法による投資損益(△は益)	△428	△431
有形固定資産除売却損益(△は益)	424	252
投資有価証券売却損益(△は益)	△17,034	△21,585
法人税等還付加算金	△11,593	—
売上債権の増減額(△は増加)	5,806	△32,827
たな卸資産の増減額(△は増加)	△8,396	△3,948
仕入債務の増減額(△は減少)	△6,650	△13,936
その他	△34,314	△54,686
小計	153,427	88,820
利息及び配当金の受取額	2,670	2,182
利息の支払額	△1,561	△2,158
法人税等の支払額	△31,348	△111,150
法人税等の還付及び還付加算金の受取額	57,191	15,199
営業活動によるキャッシュ・フロー	180,379	△7,106
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△11	△1,297
定期預金の払戻による収入	523	2,009
有形固定資産の取得による支出	△44,363	△25,598
有形固定資産の売却による収入	788	4,536
無形固定資産の取得による支出	△8,100	△8,671
投資有価証券の取得による支出	△423	△493
投資有価証券の売却及び償還による収入	240	24,057
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△77,492	△3,342
その他	△1,392	△2,532
投資活動によるキャッシュ・フロー	△130,230	△11,331
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△243,170	△494
長期借入れによる収入	300	130,000
長期借入金の返済による支出	△75	△87
社債の発行による収入	237,976	119,681
自己株式の取得による支出	△9	△17
配当金の支払額	△71,092	△71,044
その他	△1,840	△1,946
財務活動によるキャッシュ・フロー	△77,910	176,093
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17,095	14,439
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△44,855	172,096
現金及び現金同等物の期首残高	454,247	545,580
現金及び現金同等物の四半期末残高	409,392	717,677

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	医療用医薬品	ヘルスケア	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	710,389	33,595	45,208	789,192	△ 2,256	786,936
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,583	186	3,223	4,992	△ 4,992	—
計	711,972	33,781	48,431	794,184	△ 7,248	786,936
セグメント利益	95,345	8,448	5,821	109,614	△ 1,038	108,576

当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	医療用医薬品	ヘルスケア	その他			
売上高						
外部顧客への売上高	748,709	36,724	44,984	830,417	△ 2,074	828,343
セグメント間の内部売上 高又は振替高	1,533	714	3,169	5,415	△ 5,415	—
計	750,242	37,438	48,153	835,832	△ 7,490	828,343
セグメント利益	83,653	10,486	6,610	100,749	△ 773	99,976

(注)セグメント利益は、各セグメントの営業利益を表示しております。

2. 地域ごとの情報

売上高

前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

(単位:百万円)

日本	北米		欧州	ロシア /CIS	中南米	アジア	その他	合計
	うち米国							
368,251	201,820	193,789	118,139	29,517	29,432	28,868	10,909	786,936

当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

(単位:百万円)

日本	北米		欧州	ロシア /CIS	中南米	アジア	その他	合計
	うち米国							
365,687	180,185	169,039	147,890	41,285	38,181	40,303	14,813	828,343

- (注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。  
 2. 当第2四半期連結会計期間より、先進国地域と新興国地域の区分をより明瞭にするため、地域区分を変更し、従来の「米州」を「北米」と「中南米」に分割し、「欧州」を「欧州」と「ロシア/CIS」に分割しております。なお、前第2四半期連結累計期間については変更後の区分により作成しております。  
 3. 「その他」には、中東・大洋州・アフリカが含まれております。

(販売実績(外部顧客に対する売上高))

前第2四半期連結累計期間（自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日）

(単位:百万円)

医療用医薬品事業			ヘルスケア事業	その他事業	調整額	四半期連結損益 計算書計上額	(内、知的財産権収益)
(国内)	(海外)	小計					
296,279	414,110	710,389	33,595	45,208	△ 2,256	786,936	(20,389)

当第2四半期連結累計期間（自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日）

(単位:百万円)

医療用医薬品事業			ヘルスケア事業	その他事業	調整額	四半期連結損益 計算書計上額	(内、知的財産権収益)
(国内)	(海外)	小計					
290,947	457,762	748,709	36,724	44,984	△ 2,074	828,343	(37,514)